

# 平成16年度 試験研究成果書

区分	普及	題名	生物農薬「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」の特性と使用上の留意点（追補）			
〔要約〕 生物農薬「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」の催芽時浸漬による水稻種子消毒は、ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病の防除に有効である。						
キーワード	水稻種子消毒	エコホープ	催芽時浸漬	ばか苗病	細菌病類	病害虫部 病理昆虫研究室

## 1 背景とねらい

平成16年度病害虫防除基準に採用した「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」（商品名：エコホープ）の催芽時処理は、ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病に対して優れた防除効果を期待できる。今回催芽前処理に加えて、催芽時処理の特性と効果的な使用方法を示すと共に、使用上の留意点を病害虫防除基準に記載する。

## 2 成果の内容

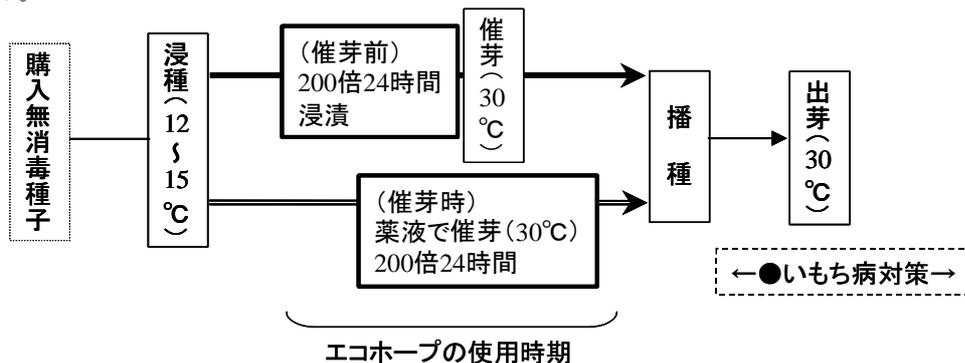
### (1) 製剤について

- ア 主成分 *Trichoderma atroviride* SKT-1 含有量：孢子  $1 \times 10^8$  cfu/mL
- イ 商品名 エコホープ
- ウ 病害虫防除基準における掲載事項

適用作物	適用病害	希釈倍率	使用時期	本成分を含む農薬の総使用回数	使用方法
水稻	ばか苗病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	200倍	催芽前～ 催芽時	1回	24時間種子浸漬

### (2) エコホープの催芽時浸漬の効果的な使用方法（防除基準本欄に採用した処理方法）

- ア 浸種が完了した無消毒種子を、本剤200倍液に浸漬して24時間催芽する（催芽時処理）と、高い防除効果が得られる（表1）。薬剤処理後は薬液を静かに切り、風乾せずにそのまま播種する。



## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本剤の特徴等については平成15年度試験研究成果「生物農薬「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」の特性と使用上の留意点」を参照のこと。
- (2) 農薬登録上の使用時期は「浸種前～催芽時」であるが、浸種前処理は細菌病類に対する防除効果が不安定である。また、適用病害は「ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、いもち病、苗立枯病（リゾプス菌）」であるが、いもち病と苗立枯病（リゾプス菌）に対する防除効果が不安定であるので、本県では上記に限定する。

#### 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等 県下全域  
 (2) 期待する活用効果 催芽前～催芽時にかけて処理できるので、作業上の選択幅が広がる。

#### 5 当該事項にかかる試験研究課題

- (402) 新農薬の効果検定と防除基準作成 (昭和49年～、民間委託)

#### 6 参考資料・文献

- (1) 平成15年度成果「生物農薬「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」の特性と使用上の留意点」(普及)  
 (2) エコホープ種子消毒に関する特別連絡試験成績 (2002)、日植防。

#### 7 試験成績の概要

表1 トリコデルマ・アトロビリデ水和剤の浸漬処理による防除効果

a) ばか苗病						
試験年次・場所	処理時期	発病苗率%	防除価	無処理%	対照	防除価
H14 秋田農試	催芽時	0	100	27.1	ヘルシードスターナ 200倍	100
	催芽前	0.1	99.6			
H14 滋賀農試	催芽時	0.2	99.7	83.6	モミガードC 200倍	98.9
	催芽前	3.1	96.3			

b) もみ枯細菌病						
試験年次・場所	処理時期	発病苗率%	防除価	無処理%	対照	防除価
H14 秋田農試	催芽時	0.9	95.3	22.8	ヘルシードスターナ 200倍	99.6
	催芽前	1.1	96.2			
H14 長野農試	催芽時	6.2	88.4	53.5	テクリードC 200倍	69.6
	催芽前	1.0	98.2			

c) 苗立枯細菌病						
試験年次・場所	処理時期	発病苗率%	防除価	無処理%	対照	防除価
H16 岩手農研	催芽時	3.0	90.6	32.0	テクリードC 200倍	71.6
	催芽前	5.0	84.3			
H14 愛知農試	催芽時	0.5	98.8	43.8	ヘルシードスターナ 200倍	80.2
	催芽前	1.3	96.9			